

生きる力・豊かな人間性を育む体験活動の充実について

鹿児島市総合教育会議

R5. 10. 26

(公財)鹿児島県学校給食会 鹿倉 貢

<今の子どもの実態>

○ 平均世帯人員の減少（国民生活基礎調査による）

- ・ 1953年（S28）・・・5.00人（団塊世代，父母と子2人と祖父母のどちらか）
- ・ 1989年（H1）・・・3.10人（両親と子ども1人から2人，勉強部屋有）
- ・ 2022年（R4）・・・2.25人（両親と子ども1人，勉強部屋有）
- ・ 家族内での会話5人で10とおおり，3人では3とおおりで人的交流少ない。

○ 近所との交流が少ない

- ・ 近所との交流・・・昭和時代は「向こう三軒両隣」，自分の家も含めて6世帯の交流
5人*6世帯=30人（30*29/2=）435とおりの交流
- ・ 今は近所との交流がなければ3とおりの交流のみ。
- ・ 他者の喪失→他人に関心を持たない→人を深く理解できない→ネット社会が輪をかける→すぐキレル→人の痛みがわからない→簡単に人を傷つける。
- ・ コミュニケーション能力の低下により，自分の気持ちを上手く話せない。真意を伝えられず誤解を招いたりする。

○ 遊び（運動）が減少した要因等

- ・ 都市化により子どもが自由に遊べる空き地等の空間が減った。
- ・ 少子化で遊び仲間の減少，習い事等により遊ぶ時間が合わない。 } 「三間の減少」
- ・ テレビゲーム，インターネット等の室内遊びの時間が増えた。
- ・ 遊び場所・・・昔（昭和～平成初期）は道路・山川・田畑，今は室内・公園・広場
- ・ 遊び仲間・・・昔は5人以上が多く異年齢集団，今は3～4人で同年齢
- ・ 1975年（S50）頃の外遊び時間は小4～6年男子1.8時間，女子1.0時間（日本学術会議2013.3.22）
- ・ 平日の外遊び・スポーツの時間（「放課後の生活時間調査」ベネッセ教育総合研究所2013.11）
2008年 小男53.5分，女36.7分 中男26.0分，女13.9分
2013年 小男50.2分，女32.2分 中男23.2分，女11.9分 ※習い事や部活動含まず

○ 体験不足に起因する事例

- ・ カブトムシが死んで電池を買いに行こうとする子ども。
- ・ 保健室で寝た後，毛布を四つ折りにたためない高校生。
- ・ 小刃の背を当てて切れないという子，鋸を曳かずに押して切ろうとする親子。
- ・ 野外炊飯場で焚きつけ用の紙を使わずに，直接チャッカマンで火を付け続ける父親。
- ・ 転んだときに手をつくタイミングが遅れ，顔を負傷する児童が増加。
- ・ かけっこで，まっすぐ走れない子どもの増加。

○ 子どもの「生活技術に関する調査」（NPO法人「子どもの生活科学研究会」）

平成30年に3歳～高校3年生の1,469人を対象に「卵を割る」「タオルを絞る」「タオルでテーブルを拭く」「お茶を入れる」の行為を判定員の前で行う。その結果，

- ・ 約25%の中高生が正しい卵の割り方ができない。
- ・ 8割以上が正しくタオルを絞れない。
- ・ 小学6年以上の子どもの約4分の1が急須でお茶を入れられない。（茶葉を適量計り，急須に入れ，やかんの湯をさし，お茶を器に注ぐ動作を判定）

＜体験活動が子どもに与える良い影響＞

○ 令和2年度青少年の体験活動に関する調査研究(文部科学省)

「21世紀出生児縦断調査を活用した体験活動の効果等分析結果について」の報告(一部抜粋)

- ・ 小学生の頃に体験活動(自然体験, 社会体験, 文化的体験)や読書, お手伝いを多くしていた子供は, その後高校生の時に自尊感情(自分に対して肯定的, 自分に満足しているなど)や外向性(自分のことを活発だと思う), 精神的な回復力(新しいことに興味を持つ, 自分の感情を調整する, 将来に対して前向きなど)といった項目の得点が高くなる傾向が見られた。
- ・ 小学生の頃に異年齢の人とよく遊んだり, 自然の場所や空き地・路地などでよく遊んだりした経験のある高校生も上記と同様の傾向が見られた。

○ 文部科学白書 2016「子供たちの未来を育む豊かな体験活動の充実」(一部抜粋)

- ・ 自然体験や生活体験といった体験が豊富な子供や, お手伝いを多くしている子供, 生活習慣が身についている子供ほど, 自己肯定感や道徳観・正義感が高い傾向が見られる。
- ・ 子供の頃に自然体験やお手伝い, 友達との遊び, 地域での活動などの体験が豊富な人ほど, 大人になってからの人間関係能力や自尊感情, 意欲・関心といった資質・能力が高い傾向が見られる。

○ 「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」((独) 国立青少年教育振興機構 2010. 10)

- ・ 子どもの頃の自然体験が多い人・・・意欲・関心が高い人が多い。
- ・ 子どもの頃の友達との遊びが多い人・・・規範意識が高い。
- ・ 子どもの頃の地域活動の経験が多い人・・・職業意識が高い。
- ・ 子どもの頃の体験が多い人は最終学歴も高い人が多いことから, 年収も高い。
 年収 750 万以上 16% (体験が少ない人 11%)
 250 万未満 30% (体験が少ない人 40%)

○ 鳥取県米子市の小学校の事例・・・子どもたちに「仕切り屋」を育てる実践

- ・ 毎週火曜日の昼休み 35 分間を異年齢集団で遊ぶ。
- ・ 各学年 1 人ずつ 6 人で遊び集団を作り, 6 年生に遊びの仕切り体験をさせる。
- ・ リーダーの 6 年生は火曜日の朝掲示板に, 今日何をして遊ぶか, 集合時刻と場所等を書いた紙を貼って知らせる。そして遊んだ後, 終了 3 分前に反省会を開き, 面白かったところ, つまらなかったところの意見を聞き, それらの意見を参考にして次の週の遊びを考える。
- ・ 取組開始 4 年目から児童が怪我で保健室を訪れる件数が半減した。(平成 12 年からの 3 年間は年間 1, 200 件前後が 15 年には 606 件に)
- ・ 遊びに慣れ, ボールのよけ方, 相手とぶつからないような避け方, 倒れた時の上手な転び方などを自然と学んだのではないか。さらに, この学校では不登校児童はゼロ。

※ コロナ禍で 3 年間実施を見合わせ。今年度 6 月から再開。基本月 1 回で, 他にも異年齢集団での活動を含めた多彩な学校行事等を実施。(同校 HP より)